

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○木村恵 大須田祐亮 小島悟 鈴木英樹

【概 要】

誕生から死までの全生涯を通して、人間がどのようにして発達していくのか、またどのような要因が発達に影響するのかについて学ぶ。人間発達を理解する上で重要となる理論背景について学習し、また人間の発達を、胎児期から乳幼児期、成人期といったライフステージからの視点、形態・機能的側面からの視点、さらには認知的および情緒・社会的側面からの視点をもとに学習し、人間の発達に対する総合的な理解を深める。

【学習目標】

【一般目標】

人間がどのように発達するのか、どのような要因が発達に影響するのかを説明できる。

老年期を生きる人を認識するために、基本的な知識を理解することができる。

【行動目標】

1. 人間発達学の対象領域について説明できる。
2. 各期の発達について説明できる。
3. 各機能の発達について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション 概論	人間発達学の概要について学ぶ。	木村恵
2	発達理論と発達検査	発達における諸理論を通じ、発達段階および各発達段階における課題を学び、発達理論の基本的概念を理解する。 標準化された発達検査を学び、各発達検査の評価方法および特徴について理解する。	木村恵
3	胎児期・新生児期の発達	胎児期から新生児期の正常発達について理解する。	大須田祐亮
4	姿勢反射・反応 運動発達(0～9ヶ月)	姿勢反射・反応について学び、その意義について理解する。 0～9ヶ月までの運動発達について理解する。	大須田祐亮
5	運動発達(10～18ヶ月) 乳児期の発達	10～18ヶ月までの運動発達について理解する。 新生児期から乳児期の身体的、運動的、認知的機能の発達を理解する。	大須田祐亮
6	上肢機能の発達	上肢機能の役割と発達について理解する。	木村恵
7	幼児期・学童期の発達	幼児期から学童期までの身体的、運動的、認知的機能の発達を理解する。	木村恵
8	青年期・成人期の発達	学童・青年期・成人期における心理的・身体的変化と社会的機能の発達について学ぶ。	木村恵
9	脳・神経系、内部機能の発達	脳・神経系、内部機能の発達に伴う変化を理解する。	大須田祐亮
10	感覚・知覚・認知・社会性の発達	感覚・知覚・認知・社会性の発達について理解する。	木村恵
11	言語機能の発達 ADLの発達(遊び・食事・排泄・更衣)	言語機能の発達について理解する。 ADLの発達について理解する。	木村恵
12	老年期の身体機能の発達	老年期の身体機能の変化について理解する。	小島悟
13	老年期の身体機能の発達	老年期の身体機能の変化について理解する。	小島悟
14	老年期の精神機能・社会的機能の発達	老年期の精神機能・社会的機能の変化について理解する。	鈴木英樹
15	老年期の精神機能・社会的機能の発達	老年期の精神機能・社会的機能の変化について理解する。	鈴木英樹

【評価方法】

定期試験 100%

試験に関するフィードバックの方法

- ・定期試験および追再試験実施後、問合わせがあった際には模範解答を開示する。

【備考】

教科書：特に指定しない。授業で適宜資料を配布する。

参考書：上杉雅之 監修 「イラストでわかる人間発達学」 医歯薬出版 2015年
大城昌平 編 「リハビリテーションのための人間発達学」 メディカルプレス 2015年
細田多穂 監修 「人間発達学テキスト」 南江堂 2014年
大内尉義 編 「老年学」第4版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野） 医学書院 2014年

【学習の準備】

毎回の講義前に、講義内容について参考書等であらかじめ予習しておくこと（80分）。

復習は、プリント、講義メモ並びに教科書を活用して学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）理学療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

木村恵（作業療法士）、大須田祐亮（理学療法士）、小島悟（理学療法士）、鈴木英樹（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、福祉期間での臨床経験を活かした教育を行う